



メンタルヘルス問題のある親による子ども養育世帯への支援 ～子育てと暮らしへの「応援」とソーシャルワーク～

保健福祉学部 人間福祉学科
准教授 松宮透高（まつみや ゆきたか）

連絡先 県立広島大学 三原キャンパス 2519号室
Tel 0848-60-1195
E-mail yukitaka@pu-hiroshima.ac.jp



専門分野： ソーシャルワーク

キーワード： 子ども虐待 精神保健福祉 「応援」
チームマネジメント 研修プログラム開発

● 現在の研究について

メンタルヘルスソーシャルワークの視点から子ども虐待対策について研究しています。子ども虐待の発生要因には、貧困や孤立をはじめとする生活問題などのほか、とくに親のメンタルヘルス問題があるとされています。ただし、メンタルヘルス問題そのものが子どもの虐待や養育上の問題を生み出しているとは必ずしもいえず、基盤にあるのは様々な生活の問題だと考えられます。そのため、まず必要なのは親の主体性と可能性を尊重した「応援」の視点と、子育てと暮らしへの具体的なサポートだと思います。

ところが、差別や偏見をはじめ生活支援の不十分さや連携不全などもあり、メンタルヘルス問題のある親への支援体制には大きな問題があります。子ども虐待問題の改善や予防のためには、児童福祉と精神保健福祉などの協働体制の構築と、この問題への正しい認識の普及が欠かせない課題なのです。

これまでに、多くの研究助成を頂き多様な調査研究を重ねてきました。児童相談所や児童家庭支援センター、全国の市区町村に設置される要保護児童対策地域協議会（要対協）、児童福祉施設（養護・乳児・自立・心理・母子）、そして精神保健福祉士を配置する医療機関、さらには都道府県・政令市における要対協研修担当課など、それぞれ全国調査を展開してきました。また、こうした世帯の支援に積極的にかかわっている要対協・包括型地域生活支援プログラム（ACT）・訪問看護ス

テーション・当事者のグループミーティングなど、国内外の先駆的な支援活動例への訪問ヒアリングも重ねてきました。

● 今後進めていきたい研究について

ここから見えてきた実態と課題に基づき、問題の改善方策を具体的に検討して行くのが今後の研究課題です。具体的には、まず、こうした世帯にかかわるスタッフを対象とした研修プログラムの開発があります。すでに、研修プログラムの試行と評価に取り組んでおり、テキスト化を目指しています。次に、支援組織におけるチームマネジメント方策の開発にも取り組んでいます。スタッフのストレスや負担が大きい課題だけに、チームのありようが支援の質に大きく影響すると考えられるからです。

● 地域・社会と連携して進めたい内容

これまで調査協力を通して多くのことを学ばせて頂きました。今後は研究知見の普及に努め、問題認識を広く地域と共有して行く必要があると考え、日本子ども虐待防止学会、日本精神保健福祉士協会学術集会のシンポジウムなどにより議論喚起を図ったほか、要対協研修など地域の研修会を通して情報共有に努めています。

これから、各地域において研修プログラムの試行・評価機会やチームマネジメントの具体的な共同研究の機会が頂けると、地域の課題改善と研究進展という互酬性のある連携関係や研究展開ができるものと考えています。